

<p style="text-align: center;">＜ 感謝 ・ お願い ＞</p> <p>この3月、今年も多くの子どもたちが卒業の日を迎えました。長い間支えていただきありがとうございます。</p> <p>6月新学期に向けて、まもなく奨学生の受け入れ準備が始まります。1年間だけでも結構です。多くの方に参加いただいて支援のリレーをお願いいたします。</p>	 <p>2007年4月30日発行</p>	<p>NPO 法人ビラーンの医療と自立を支える会 (英文名略称・HANDS)</p> <p>227-0033 横浜市青葉区鴨志田町 516-11</p> <p>TEL: 045-962-0824 FAX: 045-962-1933</p> <p>E-mail: hands-ty@r07.itscom.net</p> <p>http://www.jca.apc.org/~hands/</p> <p>郵便振替口座 00210-5-72693 (加入者名) ビラーンの医療と自立を支える会</p>
---	---	---

## 子どもたちの未来のためにも、「土地」は絶対渡さない — CADT(先祖伝来の土地権保証)獲得に向けて動き出したサムラング —

「これが CMIP ディレクターとして最後のメールになります」という書き出しで離任の挨拶メールが CMIP ファーディ神父から届いたのは3月5日のことです。

突然のディレクター職解任は、神父の身に危険が迫ったとの上司(修道会管区長)の判断によるものでした。殺されるかも知れないが、サムラングの土地は絶対渡さないといっていた神父。しかし、上司の命令は絶対です。副ディレクター・ノイ神父(ビサヤ人・非先住民族)にあとを託して、翌日には神学校赴任のためあわただしくセブ島に向かいました。

それから10日後、3月14日に新ディレクターのノイ神父から以下のメールが届きました。

. . . . .  
.

3月8日、弁護士と相談して、メホラダ氏(以下M氏)によるビラーンの土地所有権主張とVOSは違法行為とする抗議文書を、再度農地改革省(DAR)に送ることにした。

先住民族権利法(IPRA)に基づき、懸案の土地について、ビラーンの先祖伝来の土地権証明(CADT/Certification of Ancestral Domain Title)を取得する準備も進めている。今フィリピン大学の専門家に頼んで伝統的土地権証明のための調査をしてもらっている。もしもCADTを得ることができれば、M氏によって政府に売り渡されることはない。外部からの開発の誘いにもノーと言える。

ただし、CADT 獲得までの道のりは険しいと思う。敵は政府のお偉方にコネがあるから。

. . . . .

サムラングでは10年ほど前にも、CADC(Certification of Ancestral Domain Claim。CADTより法的拘束力が弱い)獲得に動いたことがありました。オー

ストラリアの鉱山会社WMCが銅鉱の試掘を始めようとした頃です。住民の反対や国際世論の圧力その他の理由で、WMCはミンダナオから撤退しました。以降、サムラングが土地喪失の脅威に直面することはありませんでした。私たちHANDSも、安心して、クリニック・研修農場、保育園(デイケアセンター)、小規模植林などのサムラング住民支援事業を実施してきました。



サムラングの笑顔 (2006年11月)

そして今回のM氏の出現です。住民のみならず私たちにとっても青天の霹靂のできごとでした。アトモロックへ向かう道すがら立ち寄るサムラングでは、いつもどこからともなく

子どもたちが集まってきて、笑い転げたり勝手に遊び始めます。屈託のない笑顔に疲れを癒されます。

たとえ教育を受けても、先住民族が町で職を得て経済的に自立するのは大変な社会です。山腹のやせた土地であっても、この子どもたちに糊口を凌ぐことのできる「土地」を残せるように、住民の闘いを応援したいと思っています。

48号をお届けしたあと、5名の方から弁護士経費カンパをいただきました。ありがとうございました。新年度定期医療支援に添えて現地に送らせていただきます。

### \*CADT取得とアグロフォレストリは車の両輪\*

CADTを取得しても、収入向上の手段がないと、結局開発業者に土地権利を売り渡すこととなります。傾斜地農法によるアグロフォレストリー実施こそ山岳部CADT取得地域で最も有効と考え、実績もあるPFPと